学力向上のための重点プラン【中学校】　新宿区立西早稲田中学校

■　学校の共通目標　【ＨＰ公開用・様式１】

授業作り	重点	・学習目標の明確化を図る。　・主体的･協働的に学ぶ学習を図る。 ・ＩＣＴ機器の活用を進める。　・個に応じた指導を工夫する。
環境作り		・安心して学習に取り組める良好な学級集団を育成する。 ・教室環境を整え、学習や行動の決まりを生徒に分かるように示す。

■　各教科の取組について

教科	学習状況の分析 （各種調査から）	学校が取り組む目標 （日常の授業の様子などから）	目標達成のための取組
国語	･R4 新宿区学力定着度調査の３学期結果から、学年間の差が見てとれる。なお、A～D 層の分布は、両学年とも、すべての層が概ね同比率である。 ･上記の調査における、設問ごとの分析で、3学年において、応用や記述について高い正答率が見られた。 ･一方で、短答式の問題や、知識･技能などは概ね区の平均値に近い。 ･国語に対する主体的な態度においては、「読書」「心情を言葉で表現する」「敬語や丁寧語」に関する項目に課題が見られた。	･家庭学習の習慣のない生徒が一定数いることが見受けられるため、日常的な学習の方法や習慣を身に付けさせる必要がある。 ･漢字を読むことは得意や好きと感じる生徒が多いが、一方で漢字や文字を正確に書いたり、丁寧に書いたりすることに対して苦手や嫌いと感じる生徒も多い。 ･生徒間において学力差が大きく、また第一言語が外国語の生徒も多いため、一定数の生徒が授業に参加できていない実態がある。	①漢字の読み書きの重点化 ②デジタルドリルを活用した漢字、文法、古文を扱った学習 ③言語活動や表現活動における敬語、丁寧語の学習
数学	･新宿区学力定着度調査の結果を見ると、3学年については、図形の領域以外はすべての領域において、A層とD層の正答率の差が5割を上回っている。関数の領域では7割近い差を見せている。 ･2学年では、数と式、関数どちらの領域でも正答率の差が6割に上り、習熟度別指導を充実させる必要がある。	･少人数指導の中で、学習に取り組む意欲の違いを強く感じる。 ･既習事項の積み重ねが特に大事な教科のため、つまづきの原因を的確に見取り、個別指導の充実を図っていく。 ･A層とD層の正答率の差が5割を下回るよう、少人数指導の充実を図る。特に、D層の正答率の向上を図る。	①反復学習の機会の増加 ②習熟度別指導クラスの単元ごとの再編成による実態に即した指導
理科	･新宿区学力定着度調査では2年と3年ともに新宿区、全国の平均を上回っている。 ･観点別では「主体的に学習に取り組む態度」が他の観点と比較して低い傾向であった。 ･「エネルギー」「地球」の領域が他の分野と比較して低い結果になっている。	･実験に対する取組に関して意欲的に取り組んでいる生徒が多いが、実験を行う際の目的や実験について自ら考え考察する姿勢が不足している傾向がある。 ･実験への取組の中で「目的」を明確化し、考察の記述から思考や表現力を高める指導を継続的に行い「主体的に学習に取り組む態度」の育成を図っていく。 ･知識の定着を図るために授業内において前時の内容を復習する時間を継続的に設けるとともに家庭学習の充実を図っていく。	①実験操作等の基本手技の徹底 ②ICT機器を用いたエネルギー等の抽象的な内容の理解促進 ③適宜課題の指示、デジタルドリルの活用による家庭学習環境の整備

社会	・R4 年学力調査から、学年間の差が見られる。 ・2年生において、基礎的な事柄を問われる問題については全国平均を下回るものの、応用問題に関しては正答につながっている。 ・思考・判断・表現の問題に関しては全国平均を上回っている。 ・3年生はどの項目においても平均を上回ることができているが、応用や記述、読むことに関する問題では、A 層とD 層の開きが大きくなっている。	・社会的な事象に対する関心や意欲は高い生徒が多い。 ・家庭学習の定着ができておらず、授業で学習をした内容が定着していない生徒も一定数いる。 ・2年生は基本的事象や社会科的用語の定着ができていない生徒が多く、繰り返しての学習の必要性がある。 ・資料活用については、複数の資料を読み取ることを苦手にしていると考えられる。 ・社会的な判断力や表現力を付けていく上で必要な、主体的に考える力が弱いことが課題である。 ・D 層のボトムアップをはかるために日頃から使う語彙を増やすとともに、社会的用語の丁寧な定着・活用を繰り返し行う必要がある。	①関心・意欲を高めるための、視覚に訴える教材の有効活用 ②動画の積極的活用 ③地図や統計などの資料を扱った、読み取る力の向上 ④授業内に復習を取り入れ、単元ごとの小テストなど、基礎的・基本的な知識の定着 ⑤社会的事象について、自分の意見や他者の考えを積極的に取り入れた主体的な学習の実施
英語	・R4 新宿区学力定着度調査の結果から、2年生の平均正答率の聞くことの項目について、難しい生徒が多い。また、3年生は平均正答率のほとんどの項目で高い結果となっている。 ・R4 新宿区学力定着度調査の結果から、2年生の聞くことの項目で、「内容に合う絵を選ぶ問題」から細かい情報を聞き取ることが難しいことがわかる。 ・3年生では、聞くことの項目の「表に合う内容を表す英文を聞き取る問題」から詳細まで聞き取ることが難しい生徒層があることがわかる。	・生徒が自ら英語を使ってやり取りをする様子があまり見られないので、生徒が積極的に英語を使えるような授業環境を整備する必要がある。 ・ALTは週に4回程度授業に出られるため、ALTを活用して、アクティビティを計画的に授業に取り込み、生きた英語に触れる機会を増やす必要がある。 ・授業中に教科書の内容をノートに書き写す生徒がいるため、教科書の内容を単に文字上で理解するだけでなく、音読するときに発音や文のイントネーションやその他の技術も指導するようにする。 ・アクティビティの中で会話が続かない生徒が多くみられる。単語や文法が身に付いていないことが考えられるため、授業内で既習の学習事項を取り扱う活動が必要である。	①帯活動等での既習の文法を用いた活動による文法の定着 ②ALTとの活動をによる、聞く力と話す力の向上 ③生徒個々でのタブレット学習時間の確保 ④デジタル教科書の効果的な活用 ④定期的に小テスト実施による、単語・文法の定着 ⑤授業内で取り扱った内容、小テストの課題、デジタル教科書の内容についての家庭学習の推進